

香曾我部義則先生の今月のカルテ ⑬

慢性痛とペインクリニック

梶木病院麻酔科・ペインクリニック科の香曾我部義則先生が、痛みを専門に扱うペインクリニックの治療法を分かりやすく説明してくれるこのコラム。第16回のカルテは「腰椎椎間板(ようついついっかんばん)ヘルニアの新しい治療法」についてです。

痛みが消えるケースも多く、手術が必要な場合は減少していると考えてよいでしょう。

急性期の治療は、安静と消炎鎮痛薬と筋弛緩(しかん)薬が中心となります。痛みが強い場合には神経

ヘルニアとは臓器 役割を果たしている一部が本来の部位から逸脱した状態のことをいいます。椎間板は内部にゲル状の髄核を持ち外部は硬い線維輪(せんいりん)によって覆われていて、脊柱(せきちゅう)のう)のクッションの

ニアです。この飛び出した髄核が神経を 効果的な新治療・造影剤の注入

急性期の治療は、安静と消炎鎮痛薬と筋弛緩(しかん)薬が中心となります。痛みが強い場合には神経

行います。これらブロックでも改善しない場合、椎間板内加圧注射という新しい方法が痛みの改善に有用な手段となっています。

ただし椎間板のタイプによって効果の違いがあり、すべてのヘルニアに効果があるわけではありません。

■プロフィール こうそかべ・よし のり 昭和54年3月岡山大学医学部卒業後、同大学麻酔科、蘇生科講師、岡山労災病院麻酔科第一部長を経て今年4月1日から現職。



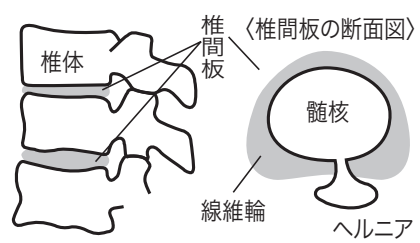
香曾我部義則先生
日本麻酔学会専門医、日本ペインクリニック学会認定医、現在日本麻酔学会、日本ペインクリニック学会、日本慢性疼痛学会、国際疼痛学会などに所属

ヘルニアの原因は加齢やストレスなどさまざま。姿勢の悪さや日常の動作(重いものを持つ、長時間の運転、スポーツなど)が引き金になります。

こういったブロックでも効果が無い場合は神経根ブロックを

比較的も行います。注入によって痛みの再現性(いつもの痛み)

※このコラムは毎月第4週目に掲載しています。■メモ問合わせ。梶木病院 ☎(293) 3355代



を確認し痛みを出す椎間板を確定。その後加圧によってヘルニアを穿破(せんぱ)・突き破ってヘルニアを外に出す(させます)。そうすることで①椎間板内圧の低下②ヘルニアの移動③ヘルニアの変形(など)によって機械的な圧迫を解除し痛みが除けるのです。同時に炎症細胞が活性化されヘルニア組織の破壊や吸収促進が起こり痛みが改善します。